

〈共通論題〉

テーマ：危機下のユーロ

座長 神戸大学 藤田誠一
関西大学 高屋定美

〈趣旨〉

現在の世界金融危機下で各国は、金融政策、財政政策、ならびに金融規制改革などの政策対応を行っている。欧州では 2007 年の仏パリバ傘下のファンドの経営危機以来、金融危機・経済危機に直面してきた。たとえば欧州の金融市場では一時的に流動性が不足し、欧州中央銀行が緊急策対応をせざるをえなくなったり、好景気であった英国やスペインでは不動産バブルの崩壊にともなう経済危機を経験したりしている。さらに、昨年よりギリシャでの財政危機問題やその伝播の懸念などが急速に高まり、金融市場ではユーロの下落に歯止めがかからない状況にある。

1999 年に共通通貨として誕生した通貨ユーロ、ならびに EU 経済がこのような金融・経済危機に対して、どのように立ち向かい、今後どのように展開していくのかを展望することが今回の共通論題の目的である。

現在の欧州経済の具体的な論点としては、なぜ EU は米国以上の深刻な危機的状況に陥ったのか、各国政府、欧州委員会ならびに欧州中央銀行が、現在進めている危機対応策は有効なのかどうか、ギリシャ財政危機で表面化した EU の財政運営問題の解決策とはどのようなものなのか、欧州統合を含む地域統合のゆくえは今後どのようなようになるのか、EU での金融監督体制改革は有効なのかどうか、などである。このような切り口から、現在の欧州経済危機を各パネラーにとらえていただき、議論を深めていきたいと考えている。

しかしながら、欧州経済のゆくえは流動的であり、現在も様々な施策が打ち出され続けている。たとえば去る 7 月には欧州主要銀行に対するストレステストが実行され、それへの評価があいついで出されてきている。このように学会当日まで、目を離せない状況の下で、現時点での欧州金融・経済危機に対する評価を行っていただきたいと考えている。

また、ユーロを導入して 10 年が経過するが、果たしてユーロを導入したことにともなう便益とコストとはいかなるものであったのか、ユーロを導入したことと金融危機とがどのように連関しているのかについても、以上の議論を通じて総括したいと考えている。

各パネラーの先生方は欧州経済に関しての豊かな知見をお持ちであり、それぞれの立場から発表をしていただくことで、欧州ならびに EU 経済を多面的にとらえることができるものとする。